

市民からのお便り 70代の仲間入りしました。そして今年には金婚式です。

親子クイズ 505

Q □の中に漢数字を入れて、ことわざを完成させましょう

- ①□日千秋 ……一日がまるで千年のように感じられるほど待ち遠しいこと
②□六時中 ……一日中
③一石□鳥 ……一つのことをして、二つの利益を得ること
④□死に一生を得る ……もうだめだと思っていたのが、奇跡的に助かること
⑤□転び八起き ……何度失敗しても、あきらめずに頑張ること
⑥早起きは□文の得 ……朝早く起きると何かいい事があるということ
⑦□人十色 ……人間は一人一人顔形が違うように、考え方や好みも違うということ
⑧□十歩百歩 ……少しの違いはあるが本質的には同じであるということ

【第504回解答】

4頭
〔シマウマ：3頭〕
〔キリン：1頭〕

【第504回当選者】

岡本麻希子(大埔甲)
窪田 寿美(篠原)
坂本 未妃(十市)
澤村 千江(十市)
渋谷 幸子(植野)

★応募総数/31通 ★正解率/77%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

■応募締切/6月12日(木)必着
■あて先/〒783-8501
南国市大埔甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
*はがきで応募
■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

スポーツは生きがい



もりもと せいいち 森本 清一さん(岡豊町定林寺)

妻と二人暮らしで、建具屋を営んでいます。小ナスや米も作っています。市のスポーツ推進委員を始めてから今年で29年目になります。昔から体を動かすことが好きで、学生時代は主にバスケットやラグビーをしていました。スポーツの良さは、ストレス発散になるということと、人との交流が増えるということですね。スポーツを通じて、年齢を問わず多くの人が交流することができました。国体の際は民泊として自宅を提供しましたが、その時の縁は今でも続いていますよ。

スポーツを通じての交流についてたくさん話していただきました。自分も子どもと一緒に汗を流したいと思います。

市民からのお便り のいち動物公園は、子どもも好きな所です。

農業始めました



きしもと ひさお 岸本 久雄さん(植野)

農業を始めましたばかりです。素人なので今は経験を積む時期だと、いろいろな野菜作りチャレンジしています。困ったときは近所の農家の方に教えてもらうこともあり、恵まれた初心者です。畑は狭いですが、産直市に出荷しているのが結構忙しいです。南国市が気に入って引っ越してきてから6年目。地域のつながりが残ることで生活は、肩のこらないお付き合いができ、毎日楽しいです。趣味は釣りや読書。ゴルフも好きです。地元仲間とゴルフへ行ったりは、地元の酒屋で飲んでいただきます(笑)。

作物の栽培状況ノートも見せてもらいましたが、丁寧な記録に岸本さんの人柄が表れていました。

にっぽんライフ 167



なんこく歴史散歩 第19回

鎌倉時代になり武家中心の政権になると、文化も武士の気風に合わせた荒々しく力強いものが好まれるようになります。そうした影響を受けた様式の仏像が禅師峰寺に残されています。禅師峰寺は十市の峰山にある四国八十八ヶ所霊場第三十二番札所であり、通称「みねんじ」と呼ばれています。境内には弘法大師の力によって岩の窪みから水が湧き出でて、枯れることがないと伝わる加持水という岩があります。その禅師峰寺に収蔵されている文化財の一つが木造金剛力士立像で、土佐を代表する鎌倉時代の像として、国の重要文化財に指定されています。



吽形 阿形



梵鐘

阿形と吽形の二体を一對とするいわゆる仁王像で、いずれもヒノキの寄木造りで玉眼・彩色像です。しかし、海風による風化のためか、彩色はほとんど剥落し、木肌も荒れています。頸部の銘から、正応4(1291)年に仏師定明によって作られたことが分かっています。像の高さは約150cmと仁王像としては小型ですが、脚には浮き出した血管まで表現されており、逆立った眉に眼を見開いた憤怒の表情が迫力ある雰囲気醸し出しています。また、同じ鎌倉時代の「徳治3(1308)年」の銘が刻まれた梵鐘も残されており、県指定の文化財になっています。

※お問い合わせは生涯学習課文化財係(☎880・6569)まで

学力調査を基にした調査結果として、子どもの学力と保護者の経済力に相関関係があると新聞に載っていました。勉強を頑張れば、家庭の経済力を問わず将来が開けると思っている学校に通ってきた私たちの世代には、何か納得のいかないう結果に思われます。戦後しばらくは、大学へ支払う学費はさほど高くなく、家庭が貧しくとも、勉学に精を出し、高い水準の教育を受けると、安定した就職ができました。しかし現在では、社会が豊かになり生活レベルが上がったため、高い水準の教育を受けるにも経済力が必要となってきたということなのでしょう。子どもは保護者の経済力とは関係なく様々な可能性を持っています。ですから、保護者の経済力で子どもの将来が左右されるということとはとても残念なことですね。格差の少ない社会になり、子どもがその能力を存分に伸ばせるようになるよう期待したいと思えます。しかし、現実には経済格差がある社会の中で、子どもの可能性を伸ばす方法はないものでしょうか? 家庭での環境が大切という声を聞きます。小中学校では学校での勉強が基本です。それがきちんとできれば学力は伸びると言われています。学校での学びがきちんと

「学びの環境」

きょうの環境を、家庭で作ることが大切ということだそう。子どもが毎日十分な睡眠をとり、朝食をとり、学校へ行き、心身共にいい状態で授業を受けられれば、勉強にも集中でき、学力も伸びるでしょう。ところが、夜更かしをして睡眠が不十分だったり、朝食をとれず空腹な状態では勉強にも身が入りません。その結果として、学力が十分に身につかなくなる可能性があります。子どもの生活リズムは家庭の生活リズムに左右されます。生活リズムを整え、いい状態で授業を受けられるようにするために、家庭での取り組みがとても大切だと思います。生まれもった可能性を子どもが花開かせることができるよう、大人はその環境を整備したいものだと思います。皆さんはいかが思われますか。*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは人権啓発広報委員会(☎880・6569)まで